

主 題：勝利の宣言

聖書箇所：ヨハネの福音書 19章30節

私の神が私のために死んでくださる、どうしてそのようなことがあり得ようかと、先ほどの賛美は歌っていました。まさにそれが私たちにとっては本当にミステリーです。私たちのような者のために創造主なる神がいのちを捨ててくださる。きょうはヨハネ19：30のみことばをご一緒に学びたいと思います。

人生最期のことば、人が死を迎える前に語った最期のことばを見ていると、その人の特徴がそこに表われています。「がんばります」と言って亡くなった国民的歌手、「隣の部屋に行くのだ、仕事をさせてくれ」と言って亡くなった有名な漫画家。こういった人々だけではなく、私たちもよく耳にするのは、「これまでありがとう」といった家族への感謝であったり、「いい人生だった」とか「もっとあれが良かった」といった人生の総括であったり、いろいろなことばを残して、人々はこの世を去って行くわけです。

きょう皆さんと一緒に見たいのは、イエス・キリストの最期のおことばです。ヨハネ19：30には、「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、『完了した。』と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」とあります。実際は「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」というのが最期のおことばだったと言われます。しかし、その前にイエス様は「完了した。」と言われました。実はこのおことばに含まれている意味が、またこの宣言が我々ひとりひとりにとって非常に重要なものなのです。イエス様が言わんとしたことが何だったのか、みことばを見て行きましょう。

A. その意味

まずこの「完了した。」ということばはどういう意味だったのか。イエス様は何を言いたかったのか。「完了した。」と訳されていることばは、成し遂げるとか、成し終えるとか、走り終えるとか、成就するとか、実現するとかといった意味を持っています。イエス様はここで、ご自分の死には目的があったこと、もっと正確に言えば彼の人生にはある特別な目的があったことを明らかにされた。だからすべてが完了した、すべてを成し終えたのだと言われたわけです。

B. その目的

では一体何の目的があったのか——。主ご自身がそのことについて教えておられます。十字架に架かってこの死を迎える前から、イエス・キリストは何のためにこの世にお見えになったのか、そして何のために十字架で死んで行くのかを人々にお話しになっておられた。ある時、イエス様は「人の子が来たのも」と、ご自分がこの世に来られた話をされるわけです。「多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」と、マルコ10：45の中で言われています。またヨハネ10：18でも「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。」と言われます。イエス様は人生が嫌になって、疲れてしまって、自分から死を選んだのか、自殺したのか。そういうことではありません。その後「わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」と言うのです。ということは主イエス・キリストは、実際に十字架で死を迎える前から、ご自分がこの世にお見えになったことが神のご計画であり、そして十字架で死んで行くことも、実は父なる神様のご計画であったということを弟子たちに明らかにされたのです。死ぬためにこの世に来た、しかも十字架で死ぬためにこの世に来たと。だからイエス様は十字架の上で、私は成すべきことを成し遂げたと行ったわけです。

C. その理由

しかし、私たちにとって不可思議なことは、なぜイエス・キリストが十字架で死ぬことが必要だったのかです。なぜ彼が十字架に架からなければいけなかったのかです。ご存じのようにだれでも十字架で死ぬわけではなかったのです。ローマ市民は十字架で死ぬことはありませんでした。普通の罪人は十字架で死ぬことがなかった。よっぽど大きな罪を犯した者が十字架でいのちを絶たれた、処刑されたわけです。一体イエス・キリストがどんなに大きな罪を犯したのか。一体彼が十字架の刑に値するようななどのような罪を犯したというのか——。それが確かに私たちにとっては疑問です。そして、神のおことばである聖書は私たちとその理由を説明してくれています。今から私たちが見て行くのは、なぜイエス・キリストが十字架で処刑されたのか、その三つの理由です。

1. あなたを罪から解放するため

一つ目の理由というのは、あなたを罪から解放するためでした。

① その意味：「代金を払って、奴隷や犯罪人を救い出すこと」

聖書の中に「贖い」ということばがあります。旧約聖書の中に18回出て来ます。私たちの日本語の

聖書では、贖い金であったり、贖いの代金であったり、身代金というふうに訳されています。新約聖書の中にはわずか3回しか出て来ません。日本語の聖書は贖いの代価と訳しています。つまりこの「贖い」ということばは、代金を払って奴隷や犯罪人を救い出すことです。私も実際に行って見ましたが、今でもアメリカの南部の方には奴隷を売買していた場所が残っています。そういうところでだれかがお金を払って、奴隷を自分のものにするといったことを想像すると、この「贖い」ということばの意味が、少し明確になると思います。代金を払って、奴隷や犯罪人を救い出すこと、それが「贖い」です。

② 奴隷、犯罪人であるあなたを救うため

そして聖書は、主イエス・キリストはあなたを贖うために、あなたを罪から救い出すために十字架で死んだと言うのです。ということは何を意味するかというと、あなたは罪の奴隷であったということです。あなたは犯罪人だったということです。ですからイエス・キリストは代価を払ってあなたをそこから救い出してくださったのだと聖書は言うわけです。どうして私が罪の奴隷なのかと思われるかもしれませんが、多くの方は「私は確かに罪を犯しますよ、でも私よりひどい人はたくさんいるし、そういう人は私の周りにもたくさんいる」と言われるかもしれませんが、しかし聖書は、ここにおられるすべての皆さんが例外なく罪の奴隷であると言います。

ヨハネ8：34では、主イエス・キリストは人々に「イエスは彼らに答えられた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。』とお話になっています。だから、もしあなたが罪を犯したのであれば、あなたは罪の奴隷だと聖書は言うのです。またヨハネは1ヨハネ3：4で、「罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。」と教えています。私たちにしてみたら、律法が何なのかよくわかりません。ユダヤ人にはよくわかるでしょうが、我々異邦人にとってはよくわからない。実はこのことに関して旧約聖書の中でエレミヤがこんなことを言っています。「：10 あなたがこの民にこのすべてのことばを告げるとき、彼らがあなたに、『なぜ、主は私たちに、この大きなわざわいを語られたのか。私たちの咎とは何か。私たちの神、主に犯したという、私たちの罪とは何か。』と尋ねたら、：11 あなたは彼らにこう言え。『あなたがたの先祖がわたしを捨て、——主の御告げ。——ほかの神々に従い、これに仕え、これを拝み、わたしを捨てて、わたしの律法を守らなかったためだ。：12 また、あなたがた自身、あなたがたの先祖以上に悪事を働き、しかも、おのおの悪い、かたくなな心のままに歩み、わたしに聞き従わないので、：13 わたしはあなたがたをこの国から投げ出して、あなたがたも、先祖も知らなかった国へ行かせる。』とエレミヤ16：10-13のみことばが教えます。

先ほど私たちが見たヨハネのことばを見ても、律法に逆らうことが罪であると言っています。そして今エレミヤのことばを聞く時に幾つかのことを我々は教えられました。まず一つ、エレミヤはあなたたちが裁かれるのは律法を守らなかったからだと言っています。先ほどもお話ししたように、我々日本人というか異邦人にとって律法というのはなじみがないので、出エジプト記20章に出てくるモーセが神様からいただいた十の戒めをご紹介します。

- (1) あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。 3節
- (2) あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。 4節
それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。 5節
- (3) あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。 7節
- (4) 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。 8節
- (5) あなたの父と母を敬え。 12節
- (6) 殺してはならない。 13節
- (7) 姦淫してはならない。 14節
- (8) 盗んではならない。 15節
- (9) あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。 16節
- (10) あなたの隣人の家を欲しがってはならない。 17節

もしあなたが偶像を作っているなら、まことの神ではなくて偽りの神を作って拝み、そういうものに仕えているならば、あなたは律法を犯したと言うのです。父と母を敬わないこと、実際に人を殺めることはなくても、心の中であんな人死んでしまえと思うその心も主の前では殺人だと。心の中での姦淫もあります。盗んではならない、心の中での盗みもあります。嘘をついてはならない、人の物を欲しがってはいけないと。これが、神様が私たちに示されたことであり、私たちがこの一つでも犯しているならば、我々は明らかに律法に対して罪を犯したことになります。そして今までのみことばを振り返って見るならば、もしそうであるならば、あなたは神の前に罪を犯している罪人であるし、あなたは罪の奴隷であると。

③ 支払われた代価

「贖い」ということばを使って、聖書は私たちにすばらしい神様の恵みを教えてくれるわけですから

ども、まず私たちが覚えなければいけないのは、あなたも私もここにいるすべての人間、全人類は生まれながらに罪の奴隷として生まれて来ていると。我々は神の前に罪を犯す、まさに犯罪人として生きてきたこと。だからイエス様が十字架で死んでくださったのは、そのようなあなたを救い出すためであったと。そのようなあなたをその罪から解放するためであったと。そしてそのために確かに代金を払ってくれたのです。その代金は主イエス・キリストご自身のいのちでした。みことばは何度も私たちにそのことを教えてくれるし、特にイエス様も「人の子が来たのも、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」とマルコ10：45で言っています。Iテモテ2：6では「キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。」とあります。主イエス・キリストが罪の奴隷であるあなたを、神に逆らい、神に背いている犯罪人であるあなたをそこから救い出すために支払ってくれた代価は、ご自身のいのちだったのです。イエス様はそのことを十字架に架かる前から弟子たちにお話しになった。そしてパウロは確かにイエス・キリストはご自分のいのちを、私たちの救いのために支払ってくださったことを告白しています。

④ その結果

(1) 違反の赦しの実現

そしてその結果どういうことが起こったのか——。私たちの主に対する違反の赦しを実現しました。みんな生まれながらに罪の奴隷として神様に逆らって来たのです。しかし、その私たちが、このイエス・キリストの十字架によってその赦しをいただくことが可能となったのです。ヘブル9：15の中で「こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。」と言います。この「初めの契約のときの違反を贖うための死が実現した」ということばをよく考えてみてください。確かに我々は神様の律法に背いています。すべてを完璧に守っている人はいません。なぜなら我々は創造主なる神を信じて、その神を愛して、その神に仕えて来たのではないからです。ですからこのヘブル書の著者が言うように、我々はみんな「初めの契約」に対して違反を犯していた。その「違反を贖うための死が実現した」、つまりイエス・キリストの死は我々の神に対する違反から救い出してくれるものであると、ヘブル書の著者は私たちに教えてくれます。だからイエス・キリストが十字架で死んでくださった。それはあなたを贖うためであったと。確かにイエス・キリストの死によって、我々が神に対してしてきた違反から、そのような罪の中から、私たちが救い出してくださり、イエスの死がそれを可能にしてくれたのです。

(2) 永遠の赦しの実現

また、違反の赦しを与えられただけではないのです。永遠の赦しを実現したことを同じヘブル9：12が「やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられた」からですと教えます。主イエス・キリストは一体何をなさったのか——。ご自分のいのちを犠牲にすることによって、信じるすべての人々に永遠の贖い、つまり救いを成し遂げた。「やぎと子牛との血によって」は、それは不可能でした。一時的に罪の赦しを与えることはできても、その赦しは永遠のものではなかった。でもイエス・キリストが十字架で死んでくださることにより、このイエス・キリストを信じるすべての人に永遠の救いが約束された。ですから、イエス・キリストが十字架で死んでくださったことによって我々罪人に救いの道が開かれたのです。しかもイエス・キリストが与える救いというのは、一時的なものではなくて、永遠の救いであると、みことばは私たちに言います。

今我々はイエス様の死が私たちにこんなすばらしい救いを約束してくれているということを見て来ました。なぜ神様はこんなことをなさったのでしょうか。なぜイエス様はわざわざこの世に来られ、人となり、十字架で死んで、私たちのためにこのようなすばらしい救いというもの、贖いというものを備えてくれたのか。この質問にも聖書は答えてくれます。詩篇49：7は「人は自分の兄弟をも買い戻すことはできない。自分の身のしろ金を神に払うことはできない。」と言います。「自分の身のしろ金を神に払うことはできない」、つまり私たちはどんなに努力をしても、自分の努力で救いを得ることはできないと言うのです。それが証拠に私たちは自分で努力して、神が喜んでくださる、神が望んでおられる完全にきよい人になることができるかという無理です。イエス・キリストを信じ、この救いに与った私たちでも罪との葛藤を経験し、罪に対する敗北を日々経験しているではないですか。つまりそういったことが私たちに教えることは、どんなに心を入れ替えても、どんなに正しく生きようと決心しても、この地上にあって私たちは罪に対して完全な勝利を得ることはないということです。

その勝利はイエス・キリストが得てくださったのです。その勝利を私たちがいただいたのです。我々が自分の努力によってその勝利を得たのではない。だからあのイエス・キリストの十字架での「完了した。」という叫びは、まさに勝利の叫びだったのです。我々人間がどうすることもできない罪に対してイエス様が勝利をした。わたしを信じるすべての人にこの贖いという救いをもたらすことができる、その道が開かれた、勝利の宣言だったのです。そして私たちは、その勝利者なるキリストによってこの罪の赦し、

勝利をいただいたに過ぎないのです。我々にできないことを主がなしてくださった。イエス様の十字架における死というのは、私たちをその罪から解放するためであり、贖いのみわざを成し遂げるためだったと。

2. あなたを神の怒りから救い出すため

二つ目は、あなたを神の怒りから救い出すためです。神様の怒りからあなたを救い出すためにイエス様は十字架で死んでくださった。

① その意味：「なだめの供え物」

Iヨハネ2：2に、「この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物」です。「なだめの供え物」ということばがここに出ています。同じIヨハネ4：10にも、「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」と教えられています。この「なだめの供え物」ということばは新約聖書に2回しか出て来ていません。「なだめる」というのは、一般的に私たちがこのことばを見る時、落ち着くように怒りをしずめるという意味です。なぜみことばはこんなことばを使っているのか。しかもなだめる対象は神様です。我々が覚えなければいけないことは、神様はあなたの罪に対して怒っておられるということです。どうも聖書の教える神様というのは、愛の神であるということだけが強調されています。ですから、多くの人たちが旧約の神と新約の神は同じ神様なのですかと言います。同じ神です。あの旧約聖書の中の、確かに罪を厳しくさばかれたあの神の姿の中にもすばらしい愛があります。同時に新約を見た時に、確かに愛が強調されています。しかしそこにも厳しい神様のきよさが示されています。今から私たちも見て行きますけれども、まさにこの「なだめの供え物」、このことが私たちに私たちの神様がどのような方であるかを教えてくれます。

② 神の怒りの原因

(1) 神に逆らっているから

なぜ神様が怒りを持っておられるのか——。先ほどエレミヤの中でも見て来ました。原因は神にあるのではなくて、私たち人間にありました。人間が神様に逆らっていることであると。だって我々がもし神様に従順に従っているなら、神様は私たちに対して怒りをお持ちになります？もし我々が神に従順に歩んでいるのだったら、神様は私たちをさばかれます？みことばが我々に言うことは、我々が神様に従っていないから、神様はそのようなさばきをなさったし、さばきを警告されているわけです。皆さんもよくご存じのヨハネ3：36に「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。」とあります。

ではなぜ神様がお怒りになるのか、神に聞き従わないからです、神に従おうとしないからです。神ではなくて自分の思いどおりに生きようとする、そのような誤った歩みに対して神様は怒りを持っておられると言われたのです。

(2) 神が忌み嫌われることを選択し、行なっているから

同時に我々が神の忌み嫌われることを選択し、行なっているからです。神がお怒りになるのは、神が忌み嫌っていること、神が憎んでいることを我々がみずからの意思で選択し、それを行ない続けているからです。ローマ1：18では、「不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されている」と言いました。真理を求めて真理に従おうではなくて、自分の好きなように生きるがゆえに、そして神様がお喜びにならない不義を私たちは選択するがゆえに神の怒りが啓示されている。神様に逆らうことをするからです。神様がしてはいけないと言うことを、喜んで、積極的にしているからです。神の警告を全く無視して、神のさばきなどないと、人生は楽しめばいいのだと言って、神に逆らい続けている、そこに問題があると聖書は教えるわけです。

パウロはエペソ5：6で「むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。」と言っています。「こういう行ないのゆえに」、その行ないがどういうものなのか、5節のところに書いています。「不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者」。結局神様のお喜びになることを選択しようとしてもしない、自分のやりたいことをやっている、そういった不従順な者たちに対して、神の怒りは下るのだと。少なくとも我々がそのことを覚えることです。神の怒りの日が来るのです。神様が神に逆らい続けている人々の罪をさばかれる日がやって来るのです。神の怒りが天から示され、すべての人を焼き尽くす、そのような時がやって来るのです。そのような人々に待っているのは、永遠の地獄です。私たちが考えなければいけないのは、自分がどうかということともに、自分の愛する者たちがどうかです。わかっていることは、この主イエス・キリストの救いをいただいでいなければ、彼らは永遠の地獄に行くのです。なぜなら彼らは神に逆らい続けているからです。神は怒っておられる。なぜ神様はそんなに人の罪に対して怒るのか——。神はきよい方だからです。きよい、正しい方だからどんな罪をもお赦しにならない。

ちょうどイザヤが神の前に立った時に、彼は非常な畏れを抱きました。彼はこんなことを告白するのです。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」(イザヤ6:5)、イザヤが言ったことは、私は汚れている、私には罪がある、このきよい正しい神を見た以上は私は生きて行けない、こんな汚れた者がきよい神の前に立つことはできないと。彼はわかっていたのです。神はきよい方であるがゆえに、自分はさばかれてしまうと。汚れた者が神の前に立つことは許されないのです。すべてそれは捨てられるのです。例えば病院でこれから大切な手術をする時、汚れた格好で、ばい菌のいっぱいついた格好では、我々は手術室の前で止められます。例えばICUに入る時も私たちは入室用の服を着て、キャップを被って、できるだけ菌を持ち込まないようにします。だってそこには重病人がいるからです。罪があるならば神の前に立つことはできない。同時に、暗闇である私たちが光の前に存在することは不可能なのです。光があればそこには闇がありません。我々罪を犯している者たちがこのきよい神の前に立つことなど不可能なのです。罪を持ったまま神の前で共存することなど不可能なのです。この方は光なのです。この方は罪の全くないきよい神なのです。神を愛し、神様に従っていたイザヤでさえもこのような畏れを抱いたのです。神はきよい方であり、罪を犯している私、罪ある人々の間に住んでいる私はこの神の前に立ちおおうことはできないのだと。

③ 赦し

私たちの神、この聖書が教える神というのは、このようにきよい正しいお方であり、そして罪に対しては正しい、公平な審判を下されるお方です。それが神なのです。旧約聖書の初めから新約聖書の終わりまで、神がそこで警告されているのは、さばきがあるということです。だって考えてみてください。人間が死んでそれまでだったら、さばきがないのだったら、イエス・キリストは来る必要はなかったのです。死んで終わりなのです。しかし、さっき見て来たように、イエス・キリストは贖い主として、我々罪の奴隷をそこから解放するために来てくださり、そしていのちを捨ててくださった。「なだめの供え物」としてイエス様は来てくださった。それは神ご自身の怒りをなだめるためだった。つまり神はあなたや私に対して怒っておられるのです。その罪を怒っておられる、その罪を憎んでおられる。そこにさばきがあることを警告されているのです。ですから確かに旧約を見ても新約を見ても、罪には必ずさばきがあるという、同じことが神によって私たちに語られています。しかし、そのような罪を赦すために、神の怒りをなだめるために主イエス・キリストは来てくださった。

(1) 人となられた

そしてまず彼は人となったのです。創造主なる神が人間となってこの世に来てくださった。なぜそんなことをされたか——。ヘブル2:17で「そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。」と教えます。つまりあなたや私の罪を赦し、神の怒りをなだめるためにイエス・キリストは身代わりとなって死ぬことが必要だったのです。でもそのためには、あなたや私と同じようにこの肉体を持たなければいけなかったのです。つまり人としてこの世に来ることが必要だったのです。イエス様が人としてお見えになったのは、あなたや私に対して神がお持ちである怒りをなだめるためであったのです。

(2) 身代わりの死

それだけではなくて、イエス様は身代わりになって死んでくださった。イエス・キリストは、みずから進んで十字架に架かって、神の怒りをなだめてくださった。

イエス・キリストの死が神の怒りをなだめるということが本当であることの証拠が二つあります。簡単に皆さんにお知らせしたいと思います。

・みことばの教え

一つ目は、最初にお話ししたIヨハネ2:2のみことば、「この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のための、——なだめの供え物なのです。」の「なだめの供え物」ということばは、満足という意味を持っています。つまりイエス・キリストの死は満足をもたらしたと言うのです。だれに満足をもたらしたのか、父なる神です。父なる神はイエス・キリストの死をごらんになって、そこに満足を得たのです。これで十分だと言われた。それで怒りがなだめられたのです。ですからみことばは私たちにイエス・キリストの死が神の怒りをなだめるに十分であることを教えてくれます。

・主イエスの復活

もう一つの理由というのは、主イエス・キリストの復活です。使徒5:30-31に、「:30 私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。:31 そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。」と、ペテロがすごいことを教えたのです。彼は、私たちの先祖の父なる神は、あの十字架で死んだイエスをそ

の死からよみがえらせたと言うのです。イエスをよみがえらせたのは父なる神のわざだと。イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるため、イエスを君とし、そして救い主としてご自分の右に上げられた。つまりイエス・キリストがよみがえって来たのは、彼が救い主であることの証なのです。イスラエルだけではなく、異邦人にまでこの救いを与えるために。ですからイエス・キリストのよみがえりというのは、イエス・キリストの死によって、信じるすべての人の罪が完全に永遠に赦される、つまり彼こそが救い主だということの証のために、父なる神はイエス・キリストをその死からよみがえらせてくださったのです。

神様はきよい方であるがゆえに罪を見逃すことをなさいません。罪は必ずその報いを受けなければならない。罪を犯した者は必ずその報いを受けなければいけないのです。我々みんな罪を犯している者です。その報いは永遠の地獄です。そして旧約から新約に至るまで神はそのことをずっと警告して来られた。しかし、神はそうにきよい正しい方であるとともに、私たちのような罪人をどういうわけか憐れんでくださり、そして私たちにとって一番必要な罪の赦しを与えるために、神がお取りになった方法は、神ご自身がご自分のひとり子イエス・キリストをこの世に送って、彼に我々のすべての罪を負わせて、彼ご自身が私たちが受けなければいけない罪のさばきを、神の怒りをその身に受けて十字架で死ぬことだったのです。その死を神は満足なされたのです。このイエス・キリストの死によって信じるすべての人が完全に永遠に救われる。彼こそが「なだめの供え物」だったのです。唯一まことの「なだめの供え物」だったのです。この方によって神の怒りは除かれるのです。なぜならイエス・キリストが神の怒りをあなたに代わって受けてくれたのです。なぜ神様は私たちのためにそこまでしてくださるのでしょうか。

3. あなたへの愛を示すため

イエス様が十字架で亡くなった、その理由はあなたを罪から解放するためであり、あなたを怒りから救い出すためであり、そして最後、あなたへの愛を示すためでした。

① 主イエスがなしてくださったこと

(1) 身代わりに罪のさばきを受けてくださった

イエス様は身代わりに罪のさばきを受けてくださいました。「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」(ローマ5:8)と、我々が何かいいことをしたから神が憐れんだのではない、我々が神に逆らい続けていた時に、神が一方的にあなたや私を愛そうとして、救い主を送ってくださった。イエス様に十字架で処刑されるような罪があったのではありません。彼には罪がありませんでした。彼こそが唯一の完璧にきよい正しいお方でした。罪があるのは我々でした。しかし、イエス様は我々の身代わりとしてあの十字架で死んでくださった。「正しい方が悪い人々の身代わりとなった」とIペテロ3:18が教えるように、イエス様は私たちの身代わりとなって罪のさばきを受けてくださったのです。

(2) きよいお方が罪人となられた

また同時に、きよいお方が、罪のないイエス様がなんと罪人になってくださった。この方は神です。先ほど見たようにあのイザヤが畏れたきよい正しい神です。その方がなんとあの十字架で罪人として死なれたのです。IIコリント5:21は、「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。」とあります。イエス様があの十字架にお架かりになった時に、3時ごろ「『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』』と言われた。「『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。』」、イエス・キリストはあの十字架の上で、罪ある者として、罪人としてあの十字架で苦しみを受けておられたのです。初めてこのきよい父なる神様との関係が引き裂かれたのです。なぜならイエス様は十字架の上で罪人として、あなたが味わうべきその神の怒りを、罪のさばきをお受けになっておられた。私たちも罪を犯すと心が痛みます。罪の全くなかったイエス様が罪人となるということは、どれほど大きな苦しみであり、屈辱であったのか。でもそれしかあなたを救う方法がないから、イエス様は喜んでそれを選択してくださった。

(3) 身代わりに神の怒りを受けてくださった

そして、三つ目に、彼は身代わりに神の怒りを受けてくださった。パウロは、エペソ2:3で我々は「生まれながら御怒りを受けるべき子ら」だったと言います。私たちが救い出されるのは、あなたに対する神の怒りをイエス様が代わりに受けてくれたからです。あの十字架でイエス様は怒りを受けてくださった。なぜこんなことをなされたのか——。あなたを愛しているからです。確かにきよい正しい神です。その方があなたを愛して、この大きな犠牲をもってあなたに救いを備えてくださいました。

約2年前に私たちはあの大変な大震災を目撃しました。悲しいことに我々はこうして関西にいて、彼らと同じ温度を感じていません。あの被災地にあって、私たちが思う以上の苦しみや悲しみがあります。いろいろな人とお話ししたり、マスコミを通して、今でも自分の愛する家族を捜している人がたくさんおられることを聞きます。彼らは、親が子供のために、祖父母が自分たちの孫のために、自分たちが代わってやればよかったということばをよく口にします、それは私たちにもよくわかります。どれほど自分の子供、自分の孫を、自分の親を、自分の兄弟を愛していたのか。愛していたら彼らの身代わり

になりたいと思うわけです。あの十字架は創造主なる神があなたの身代わりとなって、死んでくださったところです。そこまであなたを愛してくださっている。すべてのこの救いは神のみわざです。神が一方向的に私たちのような者を憐れんでくださり、そしてあなたのために喜んで救い主がこの世に来てくださり、そしてあなたが受けなければいけないさばきを受けてくださった。だからイエス様はあの十字架で言われたのです。「私はすべてを成し遂げた」、「完了した。」と。あなたを救うためにすべてのことを私は成し遂げたと。大きな犠牲があります。大きな愛があります。この愛を拒み続けるならば、この救い主を拒み続けるならば、そこにはさばきしかありません。

愛する兄弟姉妹の皆さん、私たちは先に救われた者として、この方のことを語り続けていかなければいけない。私たちのためではない、こんなにも愛しておられる神がいることを知らずにいる人々がいるのです。いつです？イエス様のお話をだれかに伝えたのは？いつが最後でした。私たちはそのために救われ、そのために生かされているのです。イエス様の十字架をいま一度見上げて、願わくば、我々一人一人決心することです。主よ、どうぞ私を使ってください、怠慢だった私を赦してくださいと。私自身があなたに感謝を忘れていたと。そして、もしまだ救いがはっきりしていच्छらない方がいるなら、今あなたはその神に背を向けているのです。このような神様に対して、私はあなたなんか必要ありませんと言っているのです。どれだけ大きな罪であるかお気づきになります？今すぐその罪を悔い改めて、イエス・キリストの備えてくださった救いをいただくことです。それが、きょうあなたに起こることを心から祈ります。

《考えましょう》

1. 主イエスは何を「完了」なされたのですか？
2. どうして主イエスの十字架には、信じるすべての人を救う力があるのでしょうか？
3. 主イエスが、あなたのために払ってくださった犠牲を記してください。
4. あなたは、主イエスへの感謝をどのように表わそうと決心なさいましたか？